
(2) セタシジミ漁獲の現況調査

(橋本佳樹)

目 的

セタシジミの分布の現況と資源量を把握し、資源管理ならびに増殖方法等の基礎資料とする。

方 法

1990年1～12月まで禁漁期間の5～6月を除き、県内の貝採捕漁業者の代表10人に、漁獲の現況調査として、漁獲日誌の記載を依頼した(日誌の内容については市場調査を参照)。漁獲の方法は、全て手繰第3種(以下貝曳網という)漁業によるものである。

結果および考察

1990年1～12月までの漁獲量を表3に、漁獲出漁状況を図3に示した。

セタシジミ漁獲の出漁日数の最も多い水域は、No14の彦根市松原地先で360日、ついでNo9の奥島周辺、No10の彦根市石寺、新海地先の205日、139日であった。しかし漁獲量では、No9の奥島周辺が、松原地先のほぼ半分強の出漁日数で17,233kgと最も多い。松原地先は13,650.7kgと二番目の漁獲量であった。

1990年度は、出漁日数の多い水域の順にNo14、No6、No9、No10、漁獲量の多い順にNo9、No6、No14、No10であったので、多少の順位の違いはあるものの、ほぼ1989年度と同じ傾向である。この4水域だけで、1990年度の出漁日数の全体に占める割合は71%と、漁場は東岸部の一部の水域に集中している。

西岸部のNo11、No12、No15、No19の年間の出漁日数は非常に少なく、漁場が狭いため漁獲量は少ないものの、1日あたりの漁獲量は105～125.5kgと、今回調査した平均値73.7kg/日よりも多く、漁場の規模は小さいものの、今後資源添加等により、資源の増大が見込める有望な漁場の1つであることが示唆された。

また1989年と1990年の8～12月の漁獲量を比較すると、1989年の漁獲量は42,006.3kg、生産額が12,330,405円、1990年は、49,220.5kg、14,760,760円と、漁獲量、生産額ともに2割弱ほど増えている。

表3 平成2年1月～12月分
 水域別セタシジミ水揚高 (調査した漁業者数 10人)

水域 No	延出漁日数	漁獲量 (kg)	生産額 (円)
1	5	493	116,070
2	66	8,499	2,248,500
3	4	29.5	11,050
5	42	1,365	469,300
6	108	6,160	1,896,400
7	10	969	244,050
8	10	1,126.5	354,125
9	205	17,233	4,928,330
10	139	8,260	2,417,820
11	37	4,616	1,171,720
12	7	735	161,150
14	360	13,650.7	4,373,436
15	21	2,369	564,100
17	34	4,984	1,182,600
18	7	841	243,500
19	25	3,138	825,950
21	34	4,838	1,332,650
22	1	127	26,670
23	1	113	30,250
24	5	599	157,830
25	24	4,288	1,038,830
計	1,145	84,433.7	23,794,331

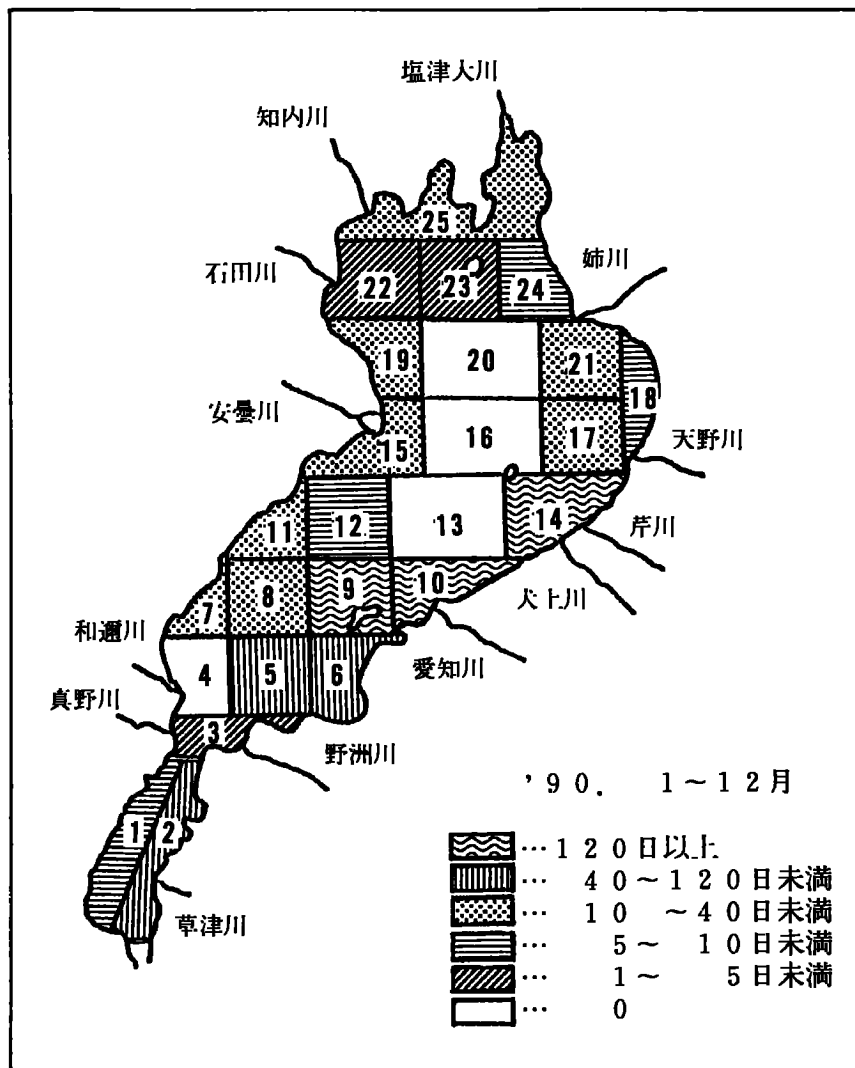


図3 セタンジミ漁獲出漁状況調査
 図中の数字は水域のナンバーを示している。